

上から↑、下から↓

2024年6月3日現在

頁	行・他	誤	正
15	図 2.1	<u>遷移元素</u>	<u>遷移元素</u>
19	↓ 8	<p>これに酸又はアルカリを加えると、水素イオン（H<sup>+</sup>）濃度が増減する。この溶液の水素イオン濃度を示す指標として pH が使われるが、これは次のように<u>水素イオン濃度を常用対数の逆数として定義したものである。</u></p> $\text{pH} = 1 / \log[\text{H}^+] = - \log[\text{H}^+]$ <p>さらに、水素イオン（H<sup>+</sup>）と水酸化物イオン（OH<sup>-</sup>）の間には25℃では次の関係が成り立っており、アルカリを加えるとOH<sup>-</sup>が増えるが、その分だけH<sup>+</sup>が減る。</p> $[\text{H}^+] \times [\text{OH}^-] = 10^{-14}$ <p>※[ ]はモル濃度（mol/L）を示す。</p>	<p>これに酸又はアルカリを加えると、水素イオン（H<sup>+</sup>）濃度が増減する。この溶液の水素イオン濃度を示す指標として pH が使われるが、これは次のように<u>水素イオンのモル濃度の逆数の常用対数として定義したものである。</u></p> $\text{pH} = \log (1 / [\text{H}^+]) = - \log[\text{H}^+]$ <p>※[ ]はモル濃度（mol/L）を示す。</p> <p>さらに、水素イオン（H<sup>+</sup>）と水酸化物イオン（OH<sup>-</sup>）の間には25℃では次の関係が成り立っており、アルカリを加えるとOH<sup>-</sup>が増えるが、その分だけH<sup>+</sup>が減る。</p> $[\text{H}^+] \times [\text{OH}^-] = 10^{-14}$
24	表 2.7 定義	酸性・アルカリ性の強さの指標。 <u>水素イオン濃度の常用対数の逆数</u>	酸性・アルカリ性の強さの指標。 <u>水素イオン濃度の逆数の常用対数</u>
35	↓ 4	… <u>四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）（Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>（マグネタイト））</u> が生じる。	… <u>酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）（Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>（マグネタイト））</u> が生じる。
35	↓ 12	$1/2\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + \text{e}^- \rightarrow 2\text{OH}^-$ (3.8)	$1/2\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + 2\text{e}^- \rightarrow 2\text{OH}^-$ (3.8)
36	↑ 2	<u>四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）</u> は水に極めて溶けにくいいため、…	<u>酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）</u> は水に極めて溶けにくいいため、…
36	↑ 3	… <u>緻密な四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）の保護被膜が生成され、</u> …	… <u>緻密な酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）の保護被膜が生成され、</u> …
36	↓ 8	しかし、水の pH が低ければ、 <u>四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）</u> の生成以前に…	しかし、水の pH が低ければ、 <u>酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）</u> の生成以前に…
36	↓ 9	…式 (3.6) のように溶解し、 <u>四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）</u> も安定でなくなる。	…式 (3.6) のように溶解し、 <u>酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）</u> も安定でなくなる。
36	↓ 10	… <u>緻密な四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）の被膜は生成されず、</u> …	… <u>緻密な酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）の被膜は生成されず、</u> …
37	図 3.2	$1/2\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + \text{e}^- \rightarrow 2\text{OH}^-$	$1/2\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + 2\text{e}^- \rightarrow 2\text{OH}^-$
41	表 3.1 7行目	<u>四酸化二鉄（Ⅲ）鉄（Ⅱ）（マグネタイト）：Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・FeO</u>	<u>酸化鉄（Ⅱ,Ⅲ）：（マグネタイト）Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub></u>